

京都府生協連ニュース

<第73回通常総会報告>

2026年8月5日・No.97(通算163号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

京都府生協連第73回通常総会報告

～全議案を満場一致で可決～

6月18日(木)、京都経済センター7階会議室A・Bで開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



京都府西脇隆俊知事代理
文化生活部 大路裕子副部長



京都労働者福祉協議会
原 敏之会長

京都府生協連第73回通常総会報告

6月18日（木）午後1時30分から、京都経済センター7階会議室A・Bで、京都府生活協同組合連合会第73回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は45人で、本人出席17人、委任出席1人、書面出席27人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、47人が参加しました。川村幸子理事による開会宣言のあと、西島秀向会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府文化生活部・大路裕子副部長（京都府西脇隆俊知事代理）、京都労働者福祉協議会・原敏之会長から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・事務局江頭弘子氏はじめ、12人

が参加しました。議長に今村奈星代議員（京大生協）が選任されました。地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などから73通の祝電・メッセージがよせられたことを松本樹事務局長が紹介しました。鯉江賢光専務理事が第1号～第4号議案を提案し、長誠一郎特定監事が監査報告をおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。総会后に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に西島秀向氏、副会長理事に高倉通孝氏、同・姫田歩氏、専務理事に鯉江賢光氏、特定監事に長誠一郎氏が就任しました。



開会のあいさつをする西島秀向会長理事



議案提案をする鯉江賢光専務理事



監査報告をする長誠一郎特定監事

■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々＜順不同・敬称略 6月18日現在＞

衆議院議員	勝目 康	衆議院議員	泉ケンタ	京都市社会福祉協議会会長	高屋宏章
衆議院議員	繁本 護	参議院議員	吉井 章	京都商工会議所会頭	堀場 厚
衆議院議員	北神圭朗	参議院議員	新実彰平	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰宏
衆議院議員	本田太郎	参議院議員	福山哲郎	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合幹夫
衆議院議員	園崎弘道	京都市長	松井孝治	京都府漁業協同組合代表理事組合長	倉 幹夫
衆議院議員	藤田洋司	京都府議会議員	荒巻隆三	近畿労働金庫理事長	宮崎 正
衆議院議員	前原誠司	京都府社会福祉協議会会長	小畑英明		

■全議案が満場一致で可決されました

議 案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2025年度活動報告・決算関係書類等承認の件	44	0	0	44
第2号議案 2026年度活動方針・活動計画および予算決定の件	44	0	0	44
第3号議案 2026年度役員選任の件	44	0	0	44
第4号議案 2026年度役員報酬決定の件	44	0	0	44

※出席代議員は合計45人（本人出席17 委任出席1 書面出席27）、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2026 年度役員体制】（6月18日現在） * 新任

<会長理事>	西島秀向（員外）	清水泰治（京都医療生協専務理事）
<副会長理事>	高倉通孝（京都生協理事長）	田中和豊（全京都勤労者共済生協専務理事）*
	姫田 歩（京都大学生協専務理事）	筆口智子（生協コープ自然派京都理事長）
<専務理事>	鯉江賢光（員外）	杉江勇亮（京都府立医大・府立大生協専務理事）*
<常任理事>	田村 敏（京都府庁生協専務理事）	西村奈美（生協生活クラブ京都エル・コープ理事長）*
	飯塚光一（立命館生協専務理事）	吉岡克己（京都生協常務理事）
	上西良太（乙訓医療生協専務理事）	吉田不二男（京都市民共済生協専務理事）
<理 事>	奥谷和隆（京都高齢者生協くらしコープ専務理事）	<特定監事> 長 誠一郎（乙訓医療生協監事）
	川村幸子（員外）	<監 事> 大川 洋（京都生協常勤監事）
	姜 美名（京都生協副理事長）	崎濱 誠（龍谷大学生協専務理事）
	上坂光彦（やましろ健康医療生協専務理事）	

【退任された役員】

<理 事> 山路 容子さん、柳澤 克哉さん

【事務局】

事務局長 松本 樹

事務局担当 川端 浩子

事務局担当 岡本 朋子

会 員 生 協

京都生活協同組合
 生活協同組合コープ自然派京都
 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ
 京都大学生生活協同組合
 同志社生活協同組合
 立命館生活協同組合
 龍谷大学生生活協同組合
 京都府立医科大学府立大学生生活協同組合
 京都工芸繊維大学生生活協同組合
 京都教育大学生生活協同組合

京都橘学園生活協同組合
 京都経済短期大学生生活協同組合
 京都府庁生活協同組合
 京都医療生活協同組合
 やましろ健康医療生活協同組合
 乙訓医療生活協同組合
 全京都勤労者共済生活協同組合
 京都市民共済生活協同組合
 京都高齢者生活協同組合くらしコープ
 生活協同組合連合会大学生協事業連合

■ 5人の代議員から発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 京都生活協同組合

平石信子代議員(写真左) 上田夏子代議員(写真右)

「協同の力で平和と希望を届けよう」



京都生協の組合員活動では、食、地域社会づくり、平和・国際貢献、消費者市民社会の推進、環境の5つのテーマに沿ってさまざまな企画、運営をおこなってきました。2025年度

は被爆・戦後80年の節目の年で、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した年でもありましたので、毎年企画に加え「被爆ピアノコンサート」や京都府生協連と共催した「子ども平和新聞プロジェクト」に取り組みしました。被爆・戦後80年を迎え子どもたちがジャーナリズムの視点を学びながら、平和について深く考えることを目的に実施。小学5年生から高校1年生までの7名が参加し、6月に京都新聞社を訪問し記事の書き方などを学んだあと、立命館大学国際平和ミュージアムで取材をおこないました。子どもたちは自分の目で見て感じたことをもとに何を伝えたいかを考え主体的に取材をすすめていきました。8月には、各自が記事を書き上げ、完成した新聞は、子どもたちのまっすぐで鋭い感性が現れた作品となりました。中には本物の新聞と見間違うほど完成度の高いものもありました。10月にKYOTO Co-Lab(コープ二条駅)での完成披露会をはじめ、東京での「被爆・戦後80年企画」や京都での「被爆ピアノコンサート」でも展示され、多くの方々に活動や想いを伝えることができました。このプロジェクトを通して子どもたち自身が平和について考え、その想いを次世代へ伝えていく貴重な機会となりました。つづいて被災地支援と防災減災の取り組みについて報告します。全国の生協で「つながる力で能登を笑顔に」を合

言葉に、さまざまな支援が続けられていますが、京都生協も京都府生協連の呼びかけに応え、サロン活動に取り組みしました。活動期間は5月中旬から11月末まで、近畿地区の府県生協および生協連で担当週を決め、京都からは3回支援に行きました。輪島市内で活動されているNGO「結」は被災地の復興に多岐にわたり継続的にサポートをされており、被災された方々が自らの力でコミュニティを動かしていけるよう現地の声を丁寧に拾い続けておられます。その「結」を通じて地域の要望を聞きながら、たこ焼きづくりでコミュニティをつなぐ支援をしました。会場はお寺や集会所などさまざまでしたが、利用された方がご近所の方の分も持ち帰られたり、声かけをされ、あとからその方が来られたりと自然と広がりを持てました。住民の方からは「来てくれてありがとう」「ひとりじゃないと感じられた」という声をいただき、活動が続けることの大切さを改めて感じました。また、この活動を通じて、私たち自身も「いつ被災するかわからない」という現実をより身近に感じるようになりました。そうした想いから、組合員を対象とする防災学習会を京都府生協連と共催しました。8月31日には京都府総合防災訓練にも参加しました。宮津市を会場に、豪雨による土砂崩れと直下型地震という複合災害を想定した訓練で、海上保安庁や陸上自衛隊、医療従事者、地元の方々も加わる大規模なものでした。京都府との協定にもとづき、緑茶や常温保存可能な牛乳などの救援物資を会場参加者にお届けしました。引き続き、支援活動と日常の防災減災の取組みを進めてまいります。京都府生協連とは、2026年度も引き続き、平和や食育、能登の被災地支援をはじめ、さまざまな組合員活動と一緒に取り組んでいく計画です。「COOPはHOPE」。全国の生協とともに協同の力で平和と希望を届けられるように、こんごも京都府生協連に単協と地域をつないでいただけたらと期待いたします。

2. 同志社生活協同組合

加藤由美代議員

「法人同志社150周年の貢献とこれから」



2025年度は同志社生協にとって累積欠損解消後のスタートの1年となりました。そのなかでわたしたちは大学とともに学生生活を支えるパートナーとしての役割を改めて見つめ直してきました。とくに同志社創立150周年の取組みでは大学コミュニティ全体を盛り上げる企

画に力をいれました。同志社小学校からの依頼をきっかけに作成した「150周年記念Tシャツ」は幼稚園、女子中高、大学へとひろがり、現在では3,000枚を超える販売となっております。また食堂では、同志社創立者である新島襄がこよなく愛した「そば」や「ぜんざい」を150円で提供したほか、学生に大人気だった「温玉チャーシュー丼 肉1.5倍増」と「油淋鶏定食 肉1.5倍増」は1日約1,000食が連日早々に完売しました。学生さんの胃袋は別世界だなあと思いながら行列をながめていますと、この評判を知った教職員たちも行列に

並びはじめ、学生の目の前で売り切れるといった事態まで発生するようになりました。旅行部門でも「150円でいけるソウル旅行抽選会」を実施し、大きな反響がありました。大学の大切な節目を学生、教職員、法人全体で祝うことができ、大変うれしく感じています。またコロナ禍で中止していた「創業者永眠の日祈祷会」の軽食対応も再開し、暖かい豚汁やぜんざいをご提供したところ、大変喜んでいただきました。「学内のさまざまな部署から最近生協が元気だねと言われているよ」と生活課の課長からお言葉をいただいたとき、本当にうれしかったです。大学のニーズや方針に寄り添い、ともに学生生活を支えることが大学生協の大きな役割だと感じています。このような取り組みを支える経営基盤づくりにも力をいれ、経営面では累積欠損解消後も単年度

黒字を維持することができました。こんごは学生生活実態調査などもふまえ、ニーズに合わせた店舗作りやサービスの見直しをすすめてまいります。食に関する事業の魅力向上に加え、ICTやAIを活用した学習支援の強化、省人化、省力化への対応などをすすめ、限られた人員のなかでもより学生に価値を届けられる運営をめざしていきます。また、この秋には京田辺校地リニューアルにあわせた店舗改装を控えています。ものを売る場所だけでなく学生が集い、相談しともに学生生活を支え合う場としての生協のあり方も模索していきたいと考えております。これから大学とともに変化する学生生活のニーズをとらえ、生協があつてよかったと感じていただける組合員を、ひとりでも増やせるよう取り組んでまいります。

3. 京都府庁生活協同組合 本多 浩代議員 「業務改善 100 のチャレンジ」



一年前に新たに田村専務理事を選任しました。京都府生協連では常任理事をつとめています。新専務理事は購買業務の責任をもつということで、これまで長年購買を担当していた職員が退職するという状況のなかでそれを補う形で力を発揮してきました。本日のタイトル「業務改善 100 のチャレンジ」は新専務理事が発案しました。数えてみると 80 項目程実施することができました。成果があったものやなかったもの

など様々でした。食堂では米の仕入れ価格上昇に合わせたごはん値上げとして 50%アップしたところ、供給高は一定維持しましたが、利用者数減で非常に苦しい状況となり、2024 年度は平均のお昼の食堂利用人数が 1 日 337 人だったのですが、2025 年度は平均 296 人ということで 41 人減ってしまいました。単品や丼も GPR57%目安に価格設定をしたところ、やはり利用者数の減少がおり、それを食い止めて供給高を増やしていかないといけないということがわかりました。この春から値下げを実施しましたが直後にイラン情勢から焚き上げライスが大幅値上げとなり、代わりに自家炊飯を実施しています。テイクアウト販売増をめざし 3 号館地下にお弁当出張販売をはじめ、20~30 個ですが定着しました。

この春から京都府立医大生協が売店でお弁当を販売してくれることになり期待しています。購買では、定年

/異動期の花束を販売、昨年チラシを各課配布し、61 束で大幅アップになり、通年で花束対応を実施することになりました。サンドイッチやおにぎりは従来「売り切れごめん」とし、追加仕入れはおこなっておりませんが、午後に追加仕入れを開始し夕方の来店増につながりました。飲食料品 3 分野(食品菓子・パン米飯・飲料)の毎日の売上げが 13~15 万円あり、前年を上回りました。店舗内イベント「ボールペン川柳」「ハロウィーンやクリスマスの飾りつけ」「紙相撲で BOSS 缶進呈」「飲料と本の組み合わせ購入で 10%値引き」などで売り上げアップとなりました。業者出店売上トップの野菜特価販売を広いスペースで実施、現在は出店業者廃業もあり新規募集中。新たに和菓子販売 ヤクルト試飲販売 八幡市ふるさと創生課のデニッシュパン販売などもおこなっています。住宅提携 14 業者との協議実施、京銀とコラボで資産セミナー実施、洛南病院店舗病棟立替え後も継続出店で進行中です。旅行分野では、JTB の代理店を終了し、第 3 種旅行業者(日本旅行業協会会員)の登録を受けて事業をスタート、庁内エレベーター宣伝、チラシやHPなどで従来以上の宣伝強化、旅行部 LINE 友達募集をし今年 3 月で 270 件登録がありました。手数料重視で収益アップをはかり旅行部のみ当期剰余で予算超えとなりました。2025 年度決算は事業剰余 200 万円のマイナスですが、事業外と特別損益で当期剰余は 78 万円のプラスになりました。ただ組合員、利用者はなかなか増えず、要因は新規採用職員の加入率が非常に下がっていることです。そこをなんとか改善したいと今年も取り組んでまいります。



4. 全京都勤労者共済生活協同組合 秋田直人代議員

「第 54 回京都の生協活動を豊かに発展させる協議会（略称：KSK）における防災・減災学習会報告について」



2026 年 4 月 7 日（火）、こく
みん共済 coop が防災・減災の
学習会を開催しましたので、紹
介します。私たちは万が一のと
き共済を通じて保障の提供をし
ておりますが、一方で日頃から
命を守る活動として防災・減災
につながる啓発活動にも力をい
れています。当日は地震、台風
など数ある災害の中から、身近
に発生する雨「大雨・土砂災害
からいのちを守る」と題して学

習会を実施しました。近年全国各地で線状降水帯、ゲ
リラ豪雨など局所的な災害も頻発しており、京都にお
いても決して他人事ではないということを実感。6 月
はじめに台風 6 号が発生、新しい防災気象情報が気象
庁で提示され、河川の氾濫と大雨、土砂災害、高潮と
区分にわけられ、白黄色赤紫黒と視覚的にわかりやす
く提示され避難行動の判断がしやすいよう整備されて
います。気象庁の「キキクル」というアプリは、大雨
洪水の危険度が地図上で視覚的にわかるアプリです。

どこでどこまで災害が迫っているかが視覚的にわかる
ということです。災害発生初期にありがちな「自分だ
けは大丈夫」といった思い込み（バイアス）を認識す
ることで、周りの人に左右されることなく自分の命を
守る行動ができることなど、事前に避難基準を持って
おくことの重要性について講演しました。続いて、参
加者を 4 グループに分け、避難所運営ゲーム「避難所
HUG」を実施し、災害が発生した場合に学校などに開
設される避難所の運営を疑似体験してもらいました。
このゲームを通じて避難所運営の難しさや状況判断の
正解がひとつでないということ、役割分担や連携の重
要性、避難所は生活の場にもなるということ、小学校
などで役所の方が運営するのではなく、避難してきた
人たちで運営するのだということを知っていただきま
した。参加者からは、「率先して避難することの大切
さを知った」、「他生協の人と交流し、やはりコミュニ
ケーションは重要と感じた」、「避難所は誰かが運営
してくれるものだと思っていた」など、多くの感想をい
ただきました。私たちは、引き続き、いのちとくらし
を守る活動に取り組んでまいります。

5. まとめ 鯉江賢光専務理事

京都生協からは京都府生協連とともに取り組んだ
「子ども平和新聞プロジェクト」、被災地支援、防災学
習会について報告いただきました。参加者募集にあた
っては、京都府生協連の呼びかけだけでは難しく、取
組みの実施にあたりまして、連携により、より充実し
た取り組みになりました。こんごも京都生協をはじめ
会員生協の皆様と取り組みをすすめることで京都全体
の生協活動を豊かに発展させていきたいと思ひます。

同志社生協からの報告では、2025 年は同志社創立 150
年の年ということで、記念 T シャツの販売、同志社創立
者新島襄氏がこよなく愛した「そば」や「ぜんざい」を
150 円で販売するなどさまざまな取り組みを通して同志
社法人全体を盛り上げられた様子が伝わってきました。
また累積欠損解消後も黒字を維持しつつ学生生活実態
調査を踏まえた店舗作りやサービスの見直し、ICT、
AI の活用、京田辺リニューアルに向けた準備など次
のステージへの挑戦が進んでおり、大学とともに学生
生活を支えるパートナーとしてこんごも生協の存在価
値がさらに高まることを期待しています。

京都府生協は経営改善に向けて取り組まれた「業
務改善 100 のチャレンジ」にもとづき、80 項目におよ
ぶ具体的な改善挑戦を実行されたことにまず心から敬
意を表します。京都府生協とは日本生協連と京都府
生協連との 3 者で年 4 回経営改善に向けた協議を開催

しており、そのなかでもさまざまな取り組みについてご
報告いただいております。発言にもありましたが食堂、
購買、旅行の各事業で値上げの局面での工夫や需要変
化への柔軟な対応、利用者との接点作り、収益改善への
取り組みなど多面的な努力を積み重ねておられることが
よくわかります。京都府生協の取り組みは単なる改善
ではなく利用者の声に寄り添い、現場の知恵を活かし、
協同の力で事業を前にすすめる生協らしい実践そのも
のだと思います。利用者にとって頼れる生協、働く仲間
にとって誇れる生協をめざしてさらなる経営改善を図
られることを期待します。

全京都勤労者共済生協からの報告では、講演で自分
の判断よりも周りと同じでいることを優先する同調性
バイアスについてのお話がありました。みんな逃げて
いないから大丈夫だろうではなく、自分自身がどうい
う状況になったら避難するかということを日常から意
識しておくことが大切だと感じました。温暖化に伴う
豪雨災害の日常化、各地で発生する地震など自然災害
への脅威が高まりつつあります。また少子高齢化、人口
減少、物価高騰などくらしの不安がひろがっています。
こうしたなかで生協への期待は確実に高まっています。
京都の地域に根差した協同の力をさらに発揮し京都の
生協が力を合わせて組合員のくらしを支える取組みを
進めていきましょう。